

○事業所名	ONEPLAY.GIFTED横濱元町教室（児童発達支援）			
○保護者評価実施期間	2025年 10月 1日		～	2025年 10月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	37	(回答者数)	28
○従業者評価実施期間	2025年 10月 1日		～	2025年 10月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)	
○事業者向け自己評価表作成日	2025年11月25日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こども一人ひとりの特性に応じた活動プログラムの立案 (項目17・18)	固定概念にとらわれず、個々の特性・支援計画に沿ってプログラムを個人で作成し、指導員ごとに工夫を凝らした活動を実施している。項目18「活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか」は全職員が「はい」と回答。保護者評価⑩も28名全員が「はい」と回答している。	複数職員でのアイデア共有の機会（月1回程度のプログラム共有会等）を取り入れ、個性性を保ちながら支援の幅をさらに広げる。
2	清潔で心地よい生活空間、こどもに合わせた環境整備 (項目3・4)	掃除する場所を分担し、毎朝スタッフが欠かさず実施。トイレや荷物棚等の設備も利用者の体格に合わせたつくりをしている。保護者評価①（スペース確保）25/28、④（清潔で心地よい環境）27/28と高評価。	感覚特性等に配慮した環境整備を継続しつつ、面談室使用時にも活用できる個室スペースの確保を検討する。
3	保護者との日常的な情報共有・コミュニケーション (項目33)	送迎時（お迎え時）に、その日のこどもの様子を保護者へ伝える取組を継続。保護者評価⑨（共通理解）25/28、⑰（共感的な支援）27/28と高い信頼を得ている。	対面での共有に加え、連絡帳アプリ等も活用し、より詳細な情報を継続的に共有できる体制を整える。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援開始前・終了後のチーム内打合せの徹底不足 (項目20・21)	項目20「支援開始前の打合せ」ははい2/いいえ3、項目21「支援終了後の打合せ」ははい1/いいえ4。送迎業務等のため、その日のうちに振り返りに参加できない職員がいることが要因。	送迎シフトの調整や記録共有ルールの明確化により、参加できなかった職員も後から振り返り内容を確認できる体制を構築する。
2	就学・地域移行期における関係機関との情報共有不足 (項目26・27、保護者⑪)	サポートブック等を用意しているが、保育所・小学校等との関わりは間接的にとどまっており、相互理解が十分でない。保護者評価⑪（保育所等との交流機会）は28名中「はい」12名にとどまり、「いいえ」6名、「わからない」8名と評価が分かれている。	保育所等訪問支援担当者・学校支援担当者との定例連絡会を設け、サポートブックの内容充実と情報共有の頻度向上を図る。
3	父母の会活動やきょうだい支援など、家族同士の交流機会の提供 (保護者⑫)	保護者評価⑫（父母の会・きょうだい支援等の交流機会）は28名中「はい」14名にとどまり、「どちらともいえない」5名、「いいえ」5名、「わからない」4名と、他の項目に比べて評価が分散し低い。家族同士・きょうだい同士が交流できる機会の提供が限定的であることが要因と考えられる。	父母の会活動やきょうだい向け交流イベントを企画し、保護者アンケート等でニーズを把握したうえで試行的に実施する。